

# 潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶  
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第311号  
平成21年9月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



撮影：超空正道

## 直心是道場

じぎしんこれどうじょう

【出典】『維摩経』ゆいまききょう 直心とは、真直ぐな心、  
また、執着おのれしない心。この心を以ってすれば、  
すべてが己おのれを磨く道場となるということ。

今の自分に  
我慢できなくて

どこかに  
私を変えてくれる

処ところがある  
人がいる と

何処どこ

だれ と  
探し求めている  
あなた

自身に  
本来備わっている  
真っ直ぐな心  
「自分らしき」を  
まず探すこと

今の自分  
今の処 足元で

直心是道場じきしんこれどうじょう

私事で申し訳ありません。今年六十一になります。四十代の頃より血圧が高く、月に一度、近くのクリニックに通院し、薬を処方してもらい、三ヶ月に一度血液検査をもらっています。その日も、血圧を測り、採血して、待合いで新聞を読んでいましたら、看護師さんが神妙な顔をして「あのね、貧血が見つかったの。男の人の貧血は、危険な場合があり、中で漏れているかもしれないので、潜在血があるかどうか調べるから、これを便に何度か突き刺して、明日持って来て。血液検査の詳しいデータは一週間くらいで出るからまた来てね」といって、綿棒くらいの試薬を渡されました。

そうはいわれても、別に体調が悪いわけでもなく、半信半疑で、

一週間後、先生に診てもらったところ「潜血反応は異常なかったけれど、取りあえず、胃力メラを飲んで調べましょう」ということになり、予約して帰ってきました。ところが、次の日、朝からどうも具合が良くないのです。土曜日で、いくつか法務が入っていましたので、午前中、なんとか済ませたままでは良かったのですが、とうとう立っていられないほどにお腹が痛くなってきました。

正午を回っていましたので、クリニックとも連絡が取れず、家内に中京病院の救急外来に連れて行ってもらいました。エコー・CT・胃力メラと続けざまに検査を受け、その診断は悪性腫瘍しゅよう。点滴、鼻から胃まで管を通され、あれこれ考える間もなく、「明日、手術」と宣言されたのです。

ただ、胃から転移したリンパのひとつが大きくなり化膿していたため、当初緊急を要する病状と判断されたようで、結果的には、精密検査の上での手術となり、胃も三分の一残り、ほぼ根治できたとお墨付きを得ました。

一ヶ月余の入院中、手術するまで、主治医より「胃全摘は免れない」、「五年間の生存率は五十%内外」なんて聞かされていたもので、身辺整理のことも随分考えました。しかし、術後三ヶ月を経た現在、死への準備という面での得難い体験をさせてもらえたと思っています。私より六つ先輩の組寺住職が、先日亡くなられました。私と同じ病気で、同じ病院で、後から入院されたのに、発見が遅く、肝臓にまで転移していたとのこと。今はただ、縁をいただき、

生きていたことの幸せをしみじみ味わらせていただいております。

さて、表題に掲げましたところの「直心是道場」ですが、典故は『維摩経』にあります。光厳童子という修行者が、騒がしい城下を出て、閑静な修行場所を探していた時、維摩居士に出会い、「どちらから来られたか」と尋ねると、「道場から来た」といっているので、「その道場は何処にあるのか」と問い直すと、維摩居士は「道場は外に求むるに及ばない。直心是道場、虚仮なきが故に」と喝破されたといっています。

「直心」とは、純一でまじりけがなく、真つ直ぐな心のことです。仏教では、それが悟りを求める菩提心でもあるとされ、その心を得ることができれば、そこが浄土であると考えられます。つまりは、

修行しようという素直な心があれば、その場その場が道場であり、どこでも修行はできるということであります。

すなわち、病気で伏していても、患者にとつては、病院のベッドが道場であり、忙しく働き回るビジネスマンにとつては、仕事の場が道場であり、戦う兵士にとつては、戦場が道場なのです。また、時間を持って余し、何もすることがなくブラブラしている人でも、今そこにいる、その場所が心を磨く修行の道場なのです。

ところが、現状の自分に我慢できなくて、「どこか他の場所に行けば何とかなるのではないか」、「だれかよその人が自分を変えてくれるのではないか」と、高額なセミナーを渡り歩いたり、怪しげな宗教に身を委ねたり、果て

は、大麻や覚せい剤に手を出す輩まで出てきたりします。

最近では、有名大学の学生が大麻を吸っていたり、芸能人の覚せい剤がらみの事件は日常茶飯事のようにニュース紙面を賑わせています。もともと、あの清纯派アイドルだった酒井法子の覚せい剤逃亡事件には驚かされました。「あれは夫が悪い」「○○が悪い」といったところで、要は、薬物に頼ろうとする本人が悪いのです。

近年、末期ガンの患者に対しては、その痛みを麻薬によってコントロールする緩和ケアが主流になりつつあります。麻薬はうまく使えば魔法の妙薬ですが、乱用すれば悪魔の毒薬です。どんな逆境にあっても「直心是道場」の精神を忘れずに、自然体で「自分らしき」を追求していくことが大切です。

◎ **瓦** かわら

もちろん屋根にのせる「瓦」のことである。日本では、飛鳥時代に中国から朝鮮の百濟くだらを経て、瓦博士の手で伝えられたとされている。

ところでこのかわらの語源が問題だ。一般には梵語のカパーラの音訳とされているが、このカパーラには、実は杯、皿、頭蓋骨ずがいなどの意味がある。すなわち、我々が「かわらけ」と呼ぶ土器のほうに意味が近いのだ。そして、このかわらけは、やがて粘土を固めて焼いた瓦に通じる。

つまり、カパーラは直接、瓦を意味したわけではなく、土器、そしてその類似性から瓦へとつながったという説も一部にはあるのだ。

もつとも、亀の甲を昔は、かぶらかぶと呼んでいたという説もあり、これ、はつきりとしていない。

仏教には「瓦経かわらぎょう」ということばもある。これは屋根瓦と同質な平らな土の板の両面にへらで経文を書いたもの。平安中期から末期にかけてよく作られたという。

(『仏教のことば』早わかり事典)

## 雑記

### ▼秋彼岸施餓鬼会

◎期日 9月23日(水)

◎時間 1時30分～2時30分

秋の気配を感じる頃となりまし

た。お彼岸の中日は、太陽がちよとど真西、つまり、極楽浄土の方向に沈む日であります。はるか阿弥陀様に思いを馳せ、ご先祖様を偲び、どうぞ、皆さまお揃いで、

お参り下さいませ。

### ▼お願い

以前より、本堂本尊様の正面の導師用の鑿子台せんすの背が低いので、鑿子(お鈴の大きいの)を鳴らすのに不便を感じておりました。出来れば、ご寄付を募り、新調したいと考えております。現在のものは、江崎十一面観音様用に、と考えております。

金額としては、十五万円ほどかかります。一万円以上ご寄付いただいた方には、鑿子台にご芳名を記させていただきます。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



### ◆赤々と西往く蜻蛉とんぼ

今日彼岸 沐魚